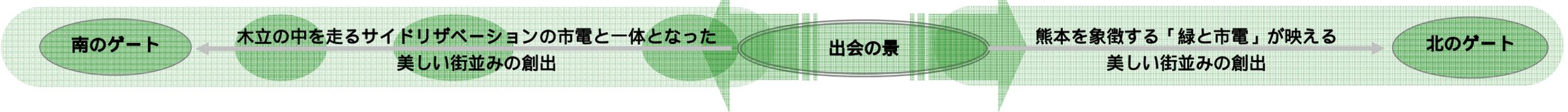
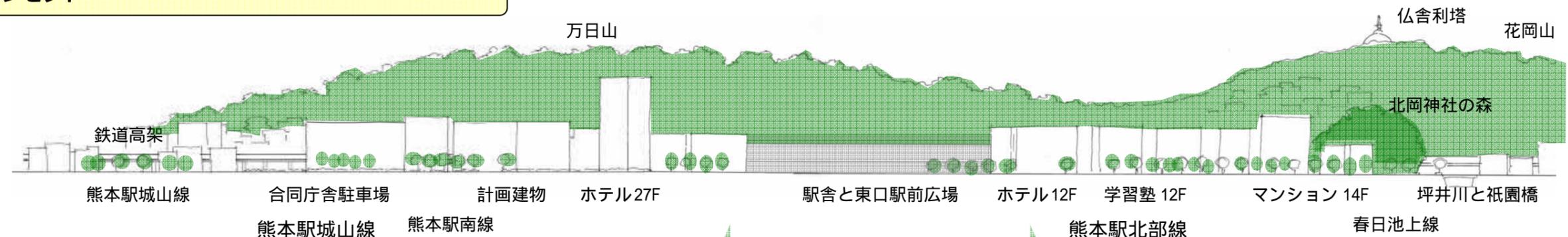
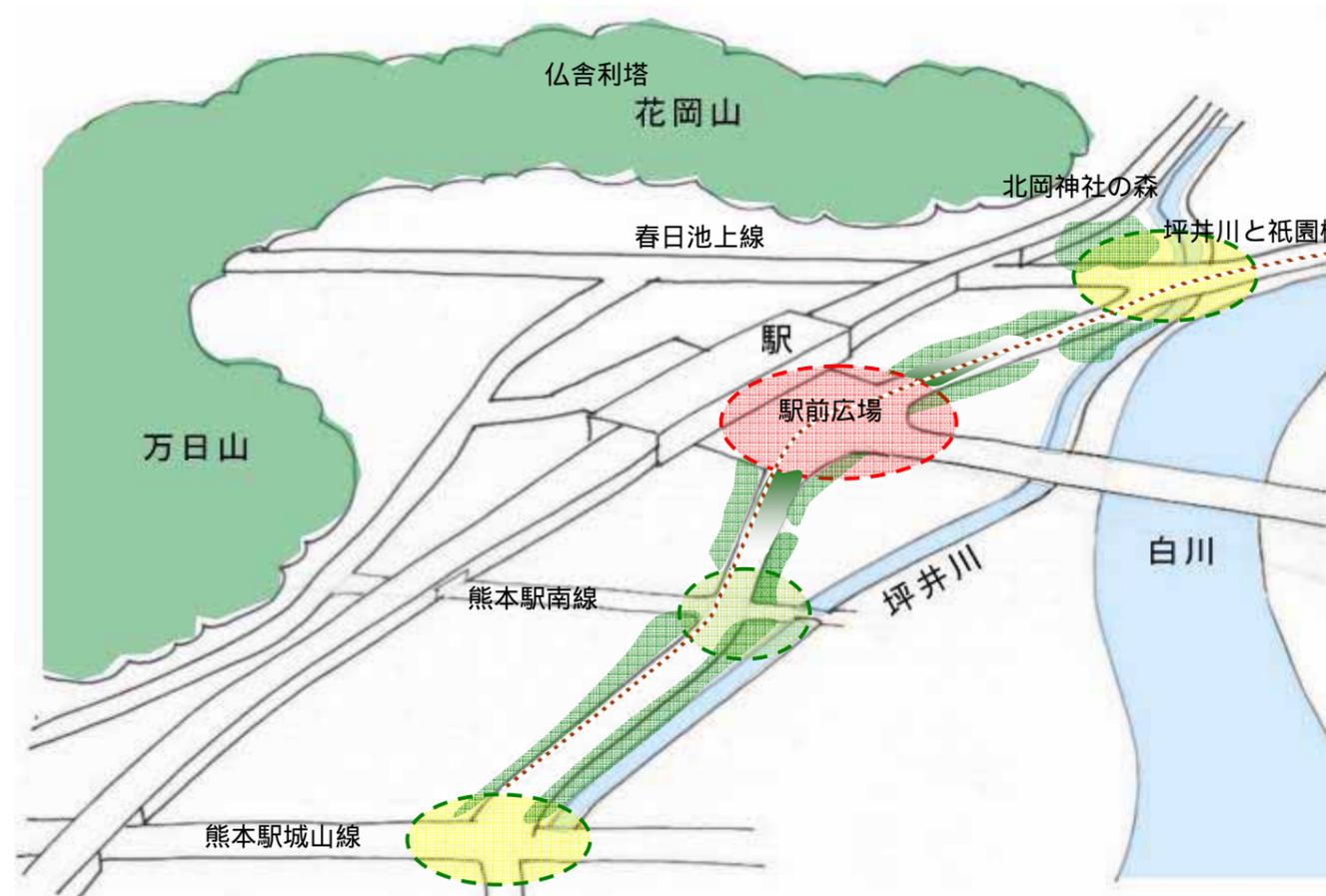


(1) コンセプト



「緑」の木立の中を走る「市電」、これらの熊本を象徴する2つの要素が心地よく映える、美しい街並みを形成する。

歩道と沿道民有敷地が連携して、人々が活用する多様な空間を構成する。

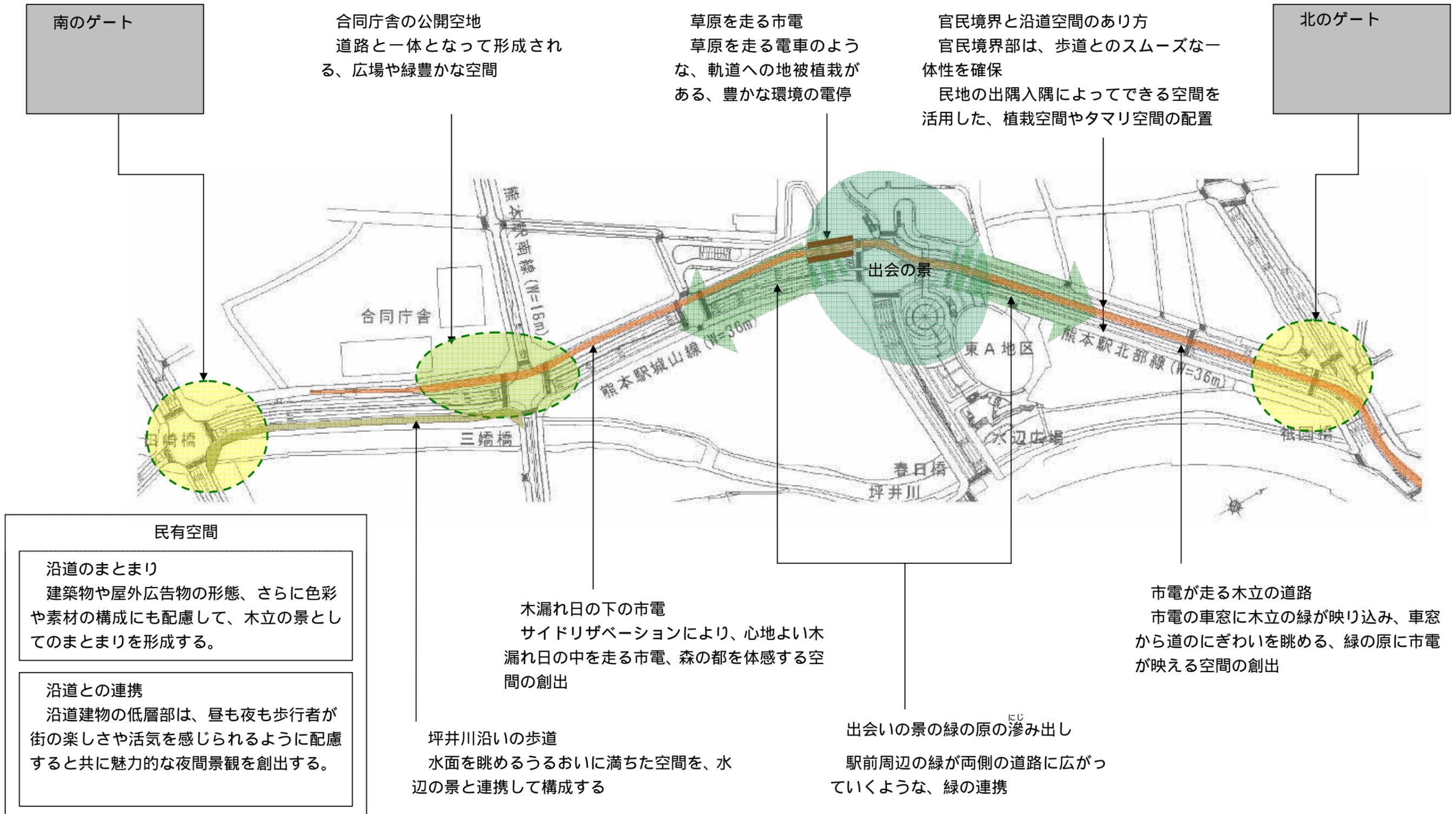


公園のような、まとまりのある多様な緑の演出により街の基盤を形成し、豊かなにぎわいとうるおいが感じられる空間を創出する。

木陰の中を走る市電を構成することにより、熊本らしい市街地の中での美しい森の都を体感する空間を形成する。

出会いの景のにぎわいとうるおいが、緑と共に木立の景に^{にじ}しみ出してきたような空間を構成する。

(2) 空間の考え方



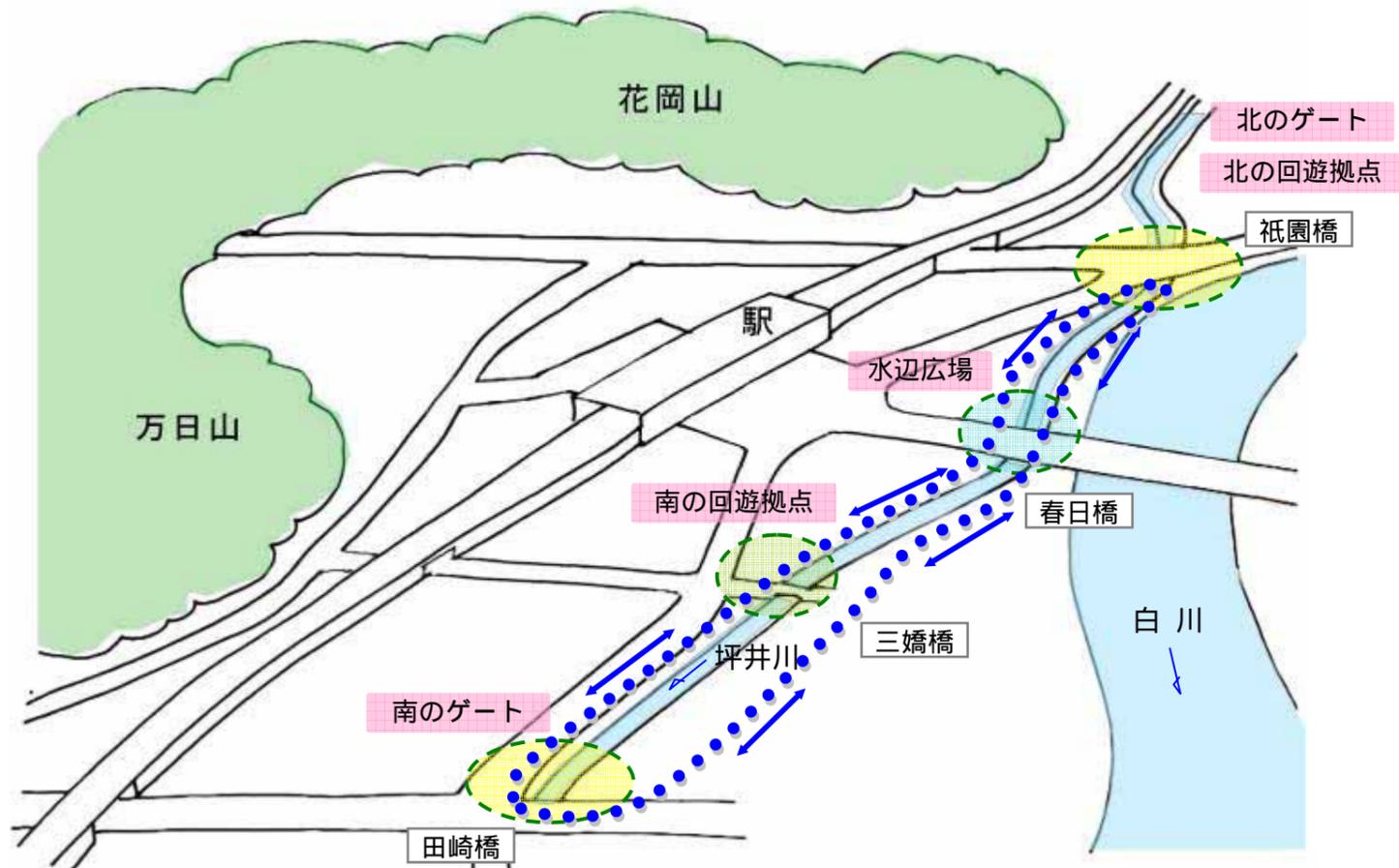
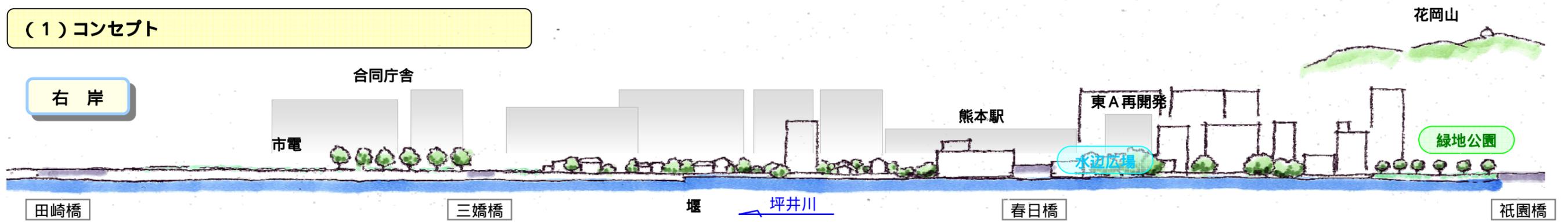
6. 水辺の景 水辺の小径 みずべ けい

~心地よい水辺・うるおいの空間~

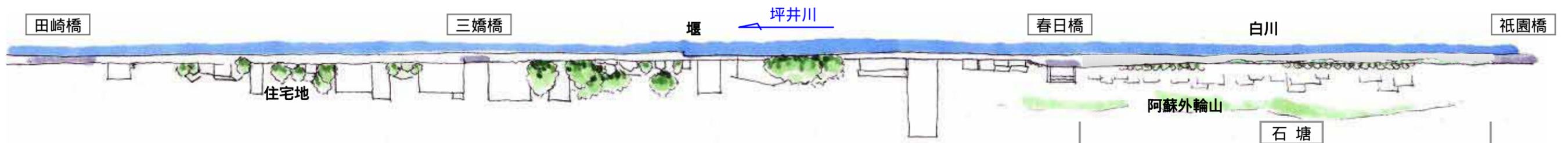
都市空間デザインについて

(1) コンセプト

右岸



左岸



与件(歴史的背景)

太古から豊かな流れで熊本平野をかたち作り、現在も雄大な自然環境を保ち続ける白川に対し、約400年前、加藤清正の熊本城下の大普請にはじまり、治水上も利水的にも様々な目的のために人の手が加えられ、地域に親しまれてきた歴史をもつ坪井川

コンセプト

「坪井川のもつ豊かな資源を活かしつつ、積極的に利活用される快適な水辺空間を創る」

地域の貴重なオープンスペースとして、坪井川沿いの町並みや白川と連携し、心地よいうるおいを感じる空間をつくる
 出会いの景(アメニティ軸)との結節点である水辺広場から、南・北の回遊拠点へ人を誘う水際散策路空間をつくる

坪井川沿いの街の記憶や歴史を感じ、地域と一体となっとうるおいを感じられる歩行者ネットワークを形成する
 貴重な資源(水、樹木、緑、歴史的遺産)を有効に活かした
 広々としたうるおいのある空間をつくる
 散策空間の単調さをなくし、人を呼び込むオアシス的役割のたまり空間をつくる

(2) 空間の考え方



田崎橋～三嬌橋

- ・熊本駅城山線沿いの緑が連続するうまい空間としての歩行空間を形成
- ・民地側での緑の保存と充実を図り、緑と水路のある熊本らしい街並み形成
- ・住宅地内を流れる水路脇の道路を活用したネットワークの形成



水路脇の六地藏 (左岸)



住宅地内の水路 (左岸)



田崎橋から上流

三嬌橋～春日橋

- ・現況の地形を活かした親水性の高い水際散策路スペースを形成
- ・沿川の民間建築物は、川側に“顔”を持たせて坪井川と一体となった賑わいや潤いのある街並み形成を図るように誘導する(オープンカフェや店舗など)
- ・現況の樹木や植生の緑豊かな景観保全
- ・民地側での緑の保存と充実を図り、水際の緑に囲まれた潤いのある街並み形成
- ・坪井川の水の流れの変化や音を感じつつ、水に触れ合うことのできる親水空間を形成
- ・南の回遊拠点として、歴史的な遺産を利活用し、地域住民の憩いの空間を形成



沿川の緑



三嬌橋から上流

春日橋～祇園橋

- ・出会の景との結節点の水辺広場(春日橋を中心に坪井川上下流)に、高水敷を活用したタマリ空間を整備し、南北への回遊がここから始まる、基点の感じられる空間を構成
- ・水辺広場には、現況の地形を活かした親水性の感じられる散策やタマリの空間を形成
- ・沿川の民間建築物は、川側に“顔”を持たせて坪井川と一体となった賑わいや潤いのある街並み形成を図るように誘導する(オープンカフェや店舗など)
- ・北の回遊拠点として、街の記憶(対岸・石塘)を眺め、地域住民の憩いの場となるタマリ空間を形成
- ・熊本の歴史や文化を感じさせる石塘の水際沿いには、小段を利用した散策スペースを形成
- ・広々とした石塘上部空間に桜並木を配する等、坪井川・白川の水の流れを感じつつ、周辺の山並みや街の表情を眺めることのできるゆったりと楽しめる空間づくり



春日橋から上流



石塘から白川を眺める